

第 30 回 FF 日本大会 in 愛媛 全体会議議事録

開催日時:2018 年 10 月 14 日(日)13:00~15:15

開催場所:大和屋本店「大和の間」

参加人数:202 名

1.開会挨拶(13:00-13:05)

FF 愛媛会長 石丸和子

豪雨、地震の災害にも拘わらず多くの参加に感謝。子規の「10 年の汗を道後の温泉に洗へ」引用。

2.参加クラブ紹介(13:05-13:15)

実行副委員長 鈴木節子

FFI 大西 弘理事、FFIRSM 金元 勅子氏、FFI 日本メンター石井 嗣代氏、FRC 蓋 康氏、FR 沼 純子氏、FR 藤井 進氏、FR 峯 洋子、の各ゲスト紹介。韓国ソウルクラブ 4 人、次いで北日本ブロックより各クラブ紹介：起立して挨拶。

3. FFI 会長ジェレミ・スヌーク氏ビデオレター(13:15-13:20)

飛行機がハリケーンで欠航。強風で倒れた巨木を背景に欠席の挨拶。(You Tube)映写

4. ジェレミ・スヌーク氏の講演を大西氏がパワーポイントにて代行(13:20-13:40)

FFI 理事 大西弘氏

スピーチ原稿和訳配布。ジェレミ・スヌーク氏原稿を愛媛クラブで集約したパワーポイントを使い大西氏講演。

(1) ジェレミ・スヌーク氏の冒頭メッセージ

○A World Friendship is a World Peace これは FF の基本理念。

○FF 会員は同じ理念を共有する仲間である。

○クラブ組織で交流することで真の友情が生まれる。

○共通の理念を持ち、ボランティア精神が加わると強い組織になる。

○FF は会員の会員による会員のための組織でなければならない。

《PPT の世界地図で映写》

日本は 163 ヶ国中 9 番目に平和で、アメリカは 121 位である。現在、世界 40 ヶ国で紛争中である。

(2)ジェレミ・スヌーク氏の FFI の誓いメッセージ

私の使命は FFマジック(言葉が通じなくても親しくなれる)で世界の人と友達になること。

私は新しい価値を生み出すこと(変化)を実現します。

今こそ友情と平和のための自分達の活動に信念と誇りを持つ。

《PPT で映写》

アメリカ、ロシア、オーストラリアの 10 代の子供とその家族 27 名が 10 日間、広島、MT 富士山梨、武蔵目黒 3 区

ラブ共同プロジェクトで日本の子供たちと交流した様子。すべてのクラブに平和への示唆を与える試みと言及。

(3)ジェレミ・スヌーク氏の 3 つの願いメッセージ～基本を思い出す～

①地域の人々に受け入れ時の協力を呼びかける。

②新入会員を歓迎すること。50 代、60 代への誘いかけ。

③受入れ・渡航の参加者を最大限にする努力。

(4)大西 弘氏コメント

彼は皆で困っている共通の問題を組織的に声に出し、FFI に提案することを望み、反映したいと願っている。自分も会員の声を是非 FFI に反映させたい。日本大会はそのよい機会である。3 つの願いは皆やっているが、もう一度基本を思い出そう。奈良クラブと一緒に韓国と交流し、メディアが報じる偏見を払拭し、FFマジックを実感。

(5)会場との質疑応答

Q:FFの問題を解決する効果的な取り組みとは何か。

A1:あったと思うが、情報の共有が不足していた。英語研修渡航がクラブとクラブの交流となり成功した。

(大西 弘氏)

A2:ブリスベンでの英語研修渡航で多世代交流した成功例を発表。また、福山で地元の小中学生と海外シニアを含む27名が世代を越え交流した。今後、子供たちのグローバル瀬戸内海サミットを計画していることを発表。

(広島)

5.愛媛紹介DVDの視聴(13:40-13:50)

<観光・祭り・食・特産品紹介>

松山城、道後温泉、坊ちゃん列車、大洲、来島海峡潮流体験、しまなみサイクリング、西条祭り、新居浜太鼓祭り、今治タオル、鯛めし

6.楽しい俳句の時間(13:50-14:20)

大坪 絢子

「俳都」松山とゆかりの人物スライド紹介:正岡子規、夏目漱石、夏井いつき等

応募60句に感謝。FFに通じる精神で選んだ上位入賞句紹介し賞品授与。入賞者との質疑応答。

ファミリー賞(家族の情を感じる) 3句

ハート賞(胸を打つ)

3句のうち一句は大分の阿南さん作で、当日が88歳の誕生日というハプニング。

特選

「空港にホストの笑顔木染月」長崎の内田有子さん

佳作

10句

英語クイズ

よく知られている芭蕉の句を英語で出題 挙手で解答。

参加型企画に大いに盛り上がる。

~15分休憩~

7.講演「FF 日本各クラブがFFIに貢献できることは。」(14:35-14:45)

FFI RSM 金元勅子氏

★アジア内協力支援

ソウルと奈良クラブが交流、マレーシア(会員8名)と東京クラブが交流

★日本国内での協力支援

単独で受入れ困難なクラブは近隣クラブに協力を要請し泊数軽減し交流。

★新クラブ設立支援

長野クラブ立ち上げに宣伝や呼びかけ等協力中。

★世界大会への参加

交流に参加した結果を日本の各クラブに持ち帰り還元することで貢献する。

★寄付金で貢献

★アジア地域担当としての最近の活動

Global Youth Journey to Japan。若い世代人とその家族合計27名が10泊し、学校訪問、学生間相互交流、多世代交流(14歳~79歳)がよかった。

★広報・宣伝活動として

フィリピンへの寄付。クラブ立ち上げ。フィリピンの学生の渡航費用に寄付活動に参加することで貢献。

8.代表者会議報告(14:45-15:00)

実行委員長 峯英司

スヌーク氏欠席ですべてのプログラムが日本語で行えて理解しやすく議論が深まった。

★SOH(ストップオーバー・ホスピタリティ、レギュラーステイの前後 1-4 泊のステイを指す)について討議

メリット:短いステイで交流でき、リターンビジットに繋がられる、又負担軽減で高齢化には適している。

デメリット:短期間を連続してホテル代わりにステイするという問題点も発生する。

※SOH の定義があいまいだったので、日本大会代表者会議討議の下記結果を FFI に提案。

・SOH の定義は 1-4 日、FFI フィーは 1 日 30 ドルとする。

・ホスト受け入れクラブプログラムフィーは基本 100 ドル(AC、HC 協議)とする。

★シェアホストについて(1 ホームステイを 2 家族で分けて受け入れる)について

負担軽減になるので高齢化対策として、また若い会員を呼び込む方法として検討必要。

レギュラー交流の 1 形態として、双方十分協議して行えば効果的。

★メンバー増加方法

メディアの活用 マスメディアを利用して宣伝

学校、市長などを訪問し行政を巻き込む。コンベンションセンターなどに参加する。

まとめ。FF の原点に戻ること。Faces, not places.

9.アンケート実施と回答集約別冊目次と内容の説明(15:00-15:15)

鈴木節子

国内各クラブ及び海外 19 クラブからのアンケート依頼し回答を得たのでその結果をまとめ発表した。

(1)健康問題改善

①渡航時

- ・健康トラブル実例 諸情報、発生状況、対応状況、反省点、改善点を表に。
- ・健康状況事前把握 クラブ、交流時期など諸情報を表に。参考意見もあり。

②受入れ時

- ・健康トラブルの実例 諸情報、発生状況、対応状況、反省点を表に。
- ・医師選定の方法
- ・事前情報が不十分で困ったこと。クラブの意見例。
- ・健康状況事前把握について意見。クラブの意見例。
- ・健康状況事前把握一覧 諸情報、健康情報(ベジタリアン、アレルギー、など)情報源を表に。

(2)より良きホームステイを目指して

①国内クラブからの意見

渡航時のホームステイ内容への要望表示。

②海外クラブからの意見

Which experience impressed you most in Japan? 等 4 質問に対する
回答を発表した(愛媛クラブによる和訳付記)

なお 参考として<第 30 回FF日本大会 in 愛媛>及び<アンケート回答集約>を添付します。